

Sustainability

サステナビリティ

心豊かな社会のために、私たちJTグループができること。
その取り組みの数々をお伝えします。

CONTENTS

新着情報 ▾

取り組み ▾

ジャーニー ▾

JT Group Purpose

心の豊かさを、 もっと。

人を想い、地域とのつながりや地球を大切に、持続可能な社会を築いていくことで、
ともに成長していきたい。そんな想いから、JTグループは事業を通じて、さまざまな取
組みを行っています。

JT Group Purpose

JT Group Materiality

JT Group Sustainability Targets 



トップマネジメントメッセージ ▸

「心の豊かさ」を届けるJTグループの想い。



マテリアリティとサステナビリティ ▸

JTグループの持続的な成長を実現させるために。

[Reduced-Risk Products]



RRP

[Anti-illicit trade]



6.9

[Agricultural Labor Practices]



99%

期待を超える価値を提供しています。

お客様の期待を超える価値創造
(RRP) >

億本以上の違法たばこが押収されました。
※2023年度実績

不法取引防止に向けた取り組み >

の葉たばこを供給するサプライヤーが、
取り組みの実施状況を報告しました。
※2023年度実績

持続可能な葉たばこ農家 >

[Environment]



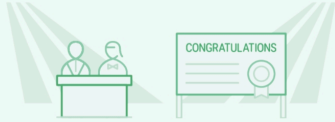
CDP Aリスト

気候変動の取り組みにおいて
最高評価を獲得しました。

※2024年度実績

環境マネジメント >

[Human Resources]



47

カ国以上において「選ばれる企業」として
認定されました。

※2023年度実績

日本国内における人財マネジメントに
ついて >

[Community investment]



583億円

地域社会へ貢献しました。

※2015年～2023年累計

コミュニティインベストメント >

News Release

サステナビリティの新着情 報

サステナビリティ新着情報/プレスリリース一覧

2025
03.31

新着情報

● サステナビリティ

「令和7年 岩手県大船渡市における大規模火災」に対す
る支援について

→

2025
03.19

新着情報

● サステナビリティ

森林保全活動「JTの森 鯉が窪にいみ」
岡山県新見市との森林保全協定を2026年3月まで延長

→

2025
02.12

プレスリリース

● サステナビリティ

気候変動への取り組みにおいて、CDPの最高評価「Aリ
スト」に
6年連続で選定  PDF:452kb

→

2025
01.16

新着情報

● サステナビリティ

森林保全活動「JTの森 中辺路」
和歌山県、田辺市との森林保全協定を2027年3月まで延
長

→

2024
10.25

新着情報

● サステナビリティ

「令和6年9月 能登半島豪雨」に対する支援について

→

目標に対する進捗

JT Group Sustainability Targetsに基づく2023年実績※

 PDF: 2,067kb

※ 2024年2月に策定したJT Group Sustainability Targetsには新たに設定したターゲット項目が含まれるため、2023年実績は、「JTグループ環境計画2030」および「各事業の中期取り組み目標」（旧KPI）に該当するターゲット項目（全25項目中16項目）を抜粋しています。

旧KPIに基づく2023年実績

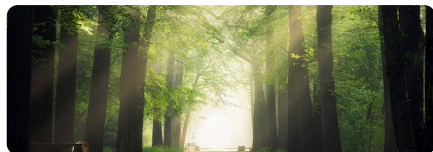
たばこ事業  PDF:1,700kb

加工食品事業  PDF:1,069kb

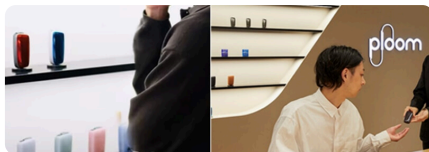
旧KPIに基づく2023年実績 一括ダウンロード

医薬事業  PDF:722kb

JTグループ環境計画2030  PDF:622kb



自然との共生 >



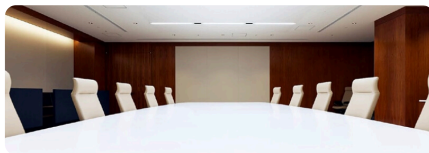
お客様の期待を超える価値創造 >



人財への投資と成長機会の提供 >



責任あるサプライチェーン
マネジメント >



良質なガバナンス >

たばこ事業の サステナビリティ戦略

Creating fulfilling moments.
Creating a better future.

たばこ事業



お客様の期待を超える価値創造 (RRP)

[RRPに関する取り組み](#) >

※ たばこ事業における「お客様」は喫煙可能な成人のお客様を意味します。なお、喫煙可能年齢は、各国の法令により異なります。日本では20歳未満の方による喫煙は、法律で禁じられています。

自然との共生

[環境に関する取り組み](#) >

人財への投資と成長機会の提供

[JTグループの人財マネジメント](#) >

[JTグループの労働安全衛生](#) >

責任あるサプライチェーンマネジメント

[持続可能なサプライチェーンの構築](#) >

[JTグループの調達方針と規範](#) >

[持続可能な葉たばこ農家](#) >

[葉たばこ以外の材料品、その他の製品やサービス](#) >

医薬事業の サステナビリティ戦略

科学、技術、人財を大切にし、
患者様の健康に貢献します。

医薬事業



加工食品事業の サステナビリティ戦略

食事をうれしく、食卓をたのしく。

加工食品事業



サステナビリティ ジャーニー

世界のサステナビリティにまつわるスト
ーリーをお届け。

サステナビリティジャーニー



その他

価値創造プロセス >

JTグループの価値創造プロセスについてご紹介しています。

非財務情報の開示 >

JTグループが参照しているガイドラインについてご紹介しています。

統合報告書 >

2019年度より、財務情報・非財務情報をあわせた、統合報告書を発行しています。

社外からの評価 >

JTグループのサステナビリティの取り組みに対する社外からの評価をご紹介します。

第三者検証 >

サステナビリティアーカイブ >

ステークホルダー・エンゲージメント >

統合報告書等、Web上で掲載しているデータの一部は、第三者による検証を受けています。

過去のサステナビリティコンテンツをアーカイブしています。

主要なステークホルダーとのエンゲージメントについてご紹介しています。

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

JTで芽吹く、
心の豊かさへの取り組み記録。



あなたに知ってほしい JTの取り組み

ころノート一覧



#働く #共創する

届け！葉たばこ農家の想いー生産者と消費者をつなぐ「Farmersマルシェ」を現地取材！



#暮らす #学ぶ

「フェロモントラップ」って知ってる？世界100カ国で活躍中の、グローバルでニッチな商品とは!?



#共創する #学ぶ

バレーボールがつなぐ人と人——選手がファンに伝えたいこと



#暮らす #共創する

宇宙飛行士の歯磨き事情が生んだ製品!?! いつでもどこでもオーラルケアできる「Chupica」が地上に



#休む #暮らす

余暇時間をもっと豊かに！JTが開発したアプリ、「Offly」「beSelf」「Habee」って？



「ころノート」プロジェクトを始めた理由

トップマネジメントメッセージ

CEOメッセージ



CSOメッセージ



CEOメッセージ

A graphic featuring a portrait of Mr. Terabatake on the right. On the left, there is a text box with the title "CEOメッセージ" and a quote. Below the quote is a smaller box with his name and signature.

CEOメッセージ

「心の豊かさを、もっと。」

時代や人により、多様で変化していく「心の豊かさ」の領域を
今後も社会から任せられ、貢献できる存在であり続けるために、
JTグループの弛まぬ進化をリードしてまいります。

代表取締役社長
寺島 正道

Mr. Terabatake

CEOメッセージの詳細は[こちらへ](#)

※FY2023統合報告書:P4

CSOインタビュー



【Q】（尾崎）JTグループにおけるサステナビリティマネジメントについて、CSO の考えをお聞かせください。

（妹川）4Sモデルの追求を経営理念とするJTグループでは「自然や社会が持続可能であってはいじめて、人の暮らしや企業の活動も持続可能となる」と考えており、これは、人の暮らしや社会、企業の活動、あらゆる人の営みは、生態系を紡いでいく一部である、という謙虚さに立脚しています。その上で、自社は無論、社会の持続性を追求し、未来づくりを担う企業としてあり続けること、そのためのあらゆる活動を主体性をもって遂行していくことが、いわば私たちJTグループのサステナビリティマネジメントです。

これらを体系化したものがJTグループ・サステナビリティ戦略であり、具体的には、起点となる1) JT Group Purpose、2) グループが優先的に取り組む重要課題として特定したJT Group Materiality、加えて3) マテリアリティを踏まえたJT Group Sustainability Targets、にて構成しています。これが我々のサステナビリティ戦略の骨格です。マテリアリティはサステナビリティ経営の基盤であり、マテリアリティを踏まえた具体的な目標や取り組みを設定し、グループ全体で推進していくことで、自然・社会と我々の事業の持続的な成長を目指していきたいと考えています。

【Q】（山本）サステナビリティ経営の基盤である「マテリアリティ」の改定について教えてください。

（妹川）2023年のマテリアリティの改定に伴い「自然との共生」「お客様の期待を超える価値創造」「人財への投資と成長機会の提供」「責任あるサプライチェーンマネジメント」「良質なガバナンス」という5つのJTグループの課題群を「JT Group Materiality」として特定しました。

本改定では、もともとあったJTグループの3つの基盤*を包含しつつそれぞれを再整理し、製品とサービスに関わる「お客様の期待を超える価値創造」や我々の事業とステークホルダーに関連する「責任あるサプライチェーンマネジメント」といったより『事業ドリブン』な重要課題をグループのマテリアリティへと吸い上げました。また、各事業が注力分野としていた「人財への投資」についても「人財への投資と成長機会の提供」として進化させグループのマテリアリティに取り込み、最終的に5つのマテリアリティを特定しています。

* JTグループの3つの基盤：「人権の尊重」「環境負荷の軽減と社会的責任の発揮」「良質なガバナンスと事業規範の実行」

【Q】（尾崎）JT Group Sustainability Targetsの策定は、どのように進められたのでしょうか。



（妹川）ターゲットの策定にあたっては、マテリアリティとして特定した課題に対する具体的な目標や取り組みを、JTグループらしく設定することを重視し、まずはマテリアリティに基づき我々が目指すべき姿を整理するというステップを踏みました。マテリアリティ改定に至るまでの議論を振り返るとともに、企業を取り巻く外部環境の変化や今後起こり得る変化の趨勢を見定めたうえ、JTグループとして目指すべき姿をマテリアリティ毎に明確にし、そこに到達するために取り組むべき内容を洗い出しました。また、これと並行し、これまで事業毎に設定していた目標の点検と更新も実施しました。こうしたアプローチを通じて作成されたターゲット案について、外部エキスパートのレビューも経て、ターゲットとして策定しています。

JT Group Targetsは、以前に策定した各事業の取り組み目標を包含しつつ、これまでのターゲットを維持・更新し、新たなターゲットも策定しています。またJTグループ環境計画2030については、その内容を維持・更新した上で、JT Group Targetsに統合しました。様々なサステナビリティの目標を、包括的にひとつにまとめることができたと考えています。

【Q】（山本）新たなJT Group Sustainability Targetsの特徴はどのようなものですか？



（妹川）トータルで25のターゲットを設定しており、新規で設定したターゲットは9項目、改定したものは10項目、維持したものは6項目あります。多様なサステナビリティのテーマとニーズに対応した、より進化したターゲット群だと考えます。

新たに策定したターゲットとしては、例えば、「自然との共生」。一般的には、“環境課題への対応”であったり“気候変動対応”でしょうが、私たちは「人の暮らしや社会、企業の活動、あらゆる人の営みは、生態系を紡いでいく一部である」という想いから“共生”に重きを置き、生物多様性の保全も見据え、事業の生態系への影響を包括的に把握しようと考えました。「生態系影響評価の実施」といったターゲットを設定し、まずはJTグループの各事業が生態系に与える影響と各事業の生態系への依存の評価を実施していきます。また、生態系への影響という観点から見過ごすことのできない「農業」に係るターゲットも追加しています。

「人財への投資と成長機会の提供」を考えるにあたっては、JTグループにおける人的資本の明確化に加え、その拡充に向けて注力する様々なターゲットを設定しました。また「責任あるサプライチェーンマネジメント」については、サプライヤーと属するコミュニティの方々が直面する社会課題に協働して取り組んでいくことが必要であると考え「たばこ農家の生活収入」といったターゲットを設定しました。2025年までに、直接取引のある葉たばこサプライチェーン産地のすべてにおいて、生活収入の測定に取り組んでいきます。

なお、新ターゲットへと引き継いだこれまでのターゲットに対する2023年の実績は概ね順調に推移しており、達成に向けてManagableと考えています。

【Q】（尾崎）今後の課題について教えてください。

(妹川) そもそも私たちが向き合っていく社会課題群は、我々に見える形で現象として表出しているものであり、加えてそれら課題群は複合的に繋がっているものが数多くありますので、その本質と向き合い、解決に取り組んでいく必要性を痛感しております。また、本質を追求していけば、取り組み課題、或いは取り組み方も変化・進化していくものと考えています。よって、ターゲットは策定して終わりではなく、定期的に点検・見直しアップデートし進化させていくことが大事です。サステナビリティ戦略の策定・運用には、CEOをはじめ、取締役会が関与する体制を執っており、策定したJT Group Sustainability Targetsについては、その運用の中で定期的に点検し、進化させていきます。



加えてサステナビリティ全体の動向をみると、各国・各地域におけるサステナビリティ情報の法定開示がスタートしますが、財務と非財務情報の統合やデータの集約とマネジメント、データの活かし方などをより高度化していく必要があると認識しています。非財務情報群から、まだ我々が気づききれていないCapabilityなどの発見もあると期待しております。これらの発見もまた、サステナビリティ経営の高度化に資するものでしょう。今後の課題というご質問ですが、まだまだ多くの“期待”がありそうです。

パーパスを起点とするマテリアリティと、それに紐づくターゲットを軸に、JTグループが将来にわたり各ステークホルダーから必要とされる存在であり続けるために、今後も全力でサステナビリティマネジメントに取り組んでいきます。

SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS

JTで芽吹く、
心の豊かさへの取り組み記録。



あなたに知ってほしい JTの取り組み

こころノート一覧



届け！葉たばこ農家の想いー生産者と消費者をつなぐ「Farmersマルシェ」を現地取材！



「フェロモントラップ」って知ってる？世界100カ国で活躍中の、グローバルでニッチな商品とは!?



バレーボールがつなぐ人——選手がファンに伝えたいこと



#暮らす #共創する



#休む #暮らす



#共創する #学ぶ

宇宙飛行士の歯磨き事情 余暇時間をもっと豊かに
「こころノート」プロジェクトを始めた理由
が生んだ製品!? いつでも に！ JTが開発したアプ
どこでもオーラルケアで り、「Offly」「beSelf」
きる「Chupica」が地上 「Habee」って？
に

マテリアリティとサステナビリティ

マテリアリティ

サステナビリティ
ターゲット

サステナビリティ
検討会

サステナビリティ
取り組み・2023年実績

4Sモデルの追求を経営理念とする当社グループは、「自然や社会が持続可能であって初めて人の暮らしや企業の活動も持続可能となる」という考えのもと、JT Group Purpose（パーパス）の具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくべく、サステナビリティ経営の根幹となる「JT Group Materiality（マテリアリティ）」を改定し、「自然との共生」「お客様の期待を超える価値創造」「人財への投資と成長機会の提供」「責任あるサプライチェーンマネジメント」「良質なガバナンス」という5つの課題群を特定いたしました。

また、マテリアリティを踏まえた当社グループとしての具体的な目標および取り組みについて、全25項目からなる「JT Group Sustainability Targets（サステナビリティターゲット）」を策定いたしました。
なお、策定したサステナビリティターゲットにつきましては、定期的に点検し、進化させてまいります。

当社グループは、マテリアリティを踏まえ、サステナビリティターゲットに定める具体的な取り組みを進め、パーパスを具現化していくことにより、持続可能な自然や社会づくりに貢献していきます。

JT Group Sustainability Targets詳細については、[こちら](#)  をご覧ください。

JT Group Sustainability Targetsの策定

「自然との共生」

私たちは、「人の暮らしや社会、企業の活動、あらゆる人の営みは、生態系を紡いでいく一部である」と考えています。そうした考えから、私たちは、これまでの環境に関連する私たちの取り組みを生態系という観点から見つめ直すとともに、生物多様性の観点も踏まえ、私たちの事業が生態系に及ぼし得る、その復元力を超える負の影響を解消していくべく、以下のサステナビリティターゲットを設けています。

 生態系影響評価の実施	 温室効果ガス排出量の削減	 再生可能エネルギーの活用
 責任ある水資源マネジメント	 森林資源の保全	 廃棄物による環境負荷の低減
 製品および容器包装リサイクル	 持続可能な農業	
 社内外との共創の促進	 コミュニティインベストメント	

“自然との共生”については[こちら](#)もご覧ください。

「お客様の期待を超える価値創造」

私たちは、画期的な製品・サービスを通じ、幅広いお客様や社会に、その期待を超える価値を提供していきたいと考えています。そうしたグループとしての想いを、たばこ事業、医薬事業、加工食品事業の各事業の取り組みを通じて具現化していくことを目指し、以下のサステナビリティターゲットを設けています。



“お客様の期待を超える価値創造”については[こちら](#)もご覧ください。

*1 RRP(Reduced-Risk Products)：喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品

*2 「未成年」とは、法令に定める喫煙可能年齢に達していない者を意味します。なお、法令に定める喫煙可能年齢は、各国・地域によって異なります。日本での喫煙可能年齢は、満20歳以上となっています。

「人財への投資と成長機会の提供」

私たちは、私たちのパーパス実現に向けた活動全ての起点となるのは当社グループ従業員一人ひとりであり、今後、その重要性は更に高まっていくと考えています。そうした中、私たちは、当社グループの人的資本の更なる拡充に向けて、複数のテーマに対し、多面的に取り組んでいくことを企図し、以下のサステナビリティターゲットを設けています。



“人財への投資と成長機会の提供”については[こちら](#)もご覧ください。

「責任あるサプライチェーンマネジメント」

私たちが持続的に成長し続けるためには、私たちの事業を支えるサプライチェーンが事業環境の急激な変化に耐え得る、持続的なものであることが欠かせません。その実現に向けて、私たちは、サプライヤースクリーニングやデュー・ディリジェンスといった取り組みを着実に進めるだけでなく、サプライヤーやサプライヤーの属するコミュニティが直面する社会課題に、私たちも協働して取り組んでいくことが必要であると考え、以下のサステナビリティターゲットを設けています。



“責任あるサプライチェーンマネジメント”については[こちら](#)もご覧ください。

「良質なガバナンス」

良質なガバナンスは、様々なステークホルダーの満足度を高め、信頼される企業体であり続けるための礎となるものであり、私たちのあらゆる活動の前提となるものと考えています。そうした中、私たちは、中長期にわたる持続的な利益成長と企業価値の持続的な向上の実現、およびステークホルダーまた経済・社会全体の発展への貢献を念頭に、各事業の特性に着目し、以下のサステナビリティターゲットを設けています。



“良質なガバナンス”については[こちら](#)もご覧ください。

[ページトップへ戻る](#) 

グループマテリアリティの改定

当社グループでは2013年からマテリアリティ分析に取り組んでおり、社内外のステークホルダーへのヒアリングを通じて、2015年に初めてJT グループ全体を対象とするマテリアリティ項目を選定しました。

当初特定したマテリアリティからの外部環境や事業環境の変化を踏まえ、2021年よりマテリアリティの見直しを開始しました。重要課題の洗い出しと分析、社内外のステークホルダーへのヒアリングを通じて、課題の特定と優先順位付けした上で、改めてマテリアリティマトリックスを作成し、JT グループのマテリアリティとして取り上げるべき課題群を特定、JT Group Materialityを策定いたしました。

JT Group Materialityはダブルマテリアリティの考え方に基づき策定されており、持続的な成長にあたって、ステークホルダーや社会への重要度や影響度と、グループへの重要度や影響度を踏まえています。なお、一連のプロセスは、外部コンサルタントのアドバイスを踏まえて実施しています。

2023年では、JT Group Sustainability Targetsの策定にあたり、起点となるJT Group Materialityについても外部コンサルタントやアドバイザーの意見を踏まえ、併せて点検を実施しました。その際、特定した5つのマテリアリティとマテリアリティ・マトリックス上の各トピックスについて、前年から急激に変化している要素の有無など、アップデートすべきものがあるか確認しています。今後もマテリアリティの点検を毎年実施し、紐づくターゲットについても定期的にモニタリングしてまいります。

JT Group Materiality の策定プロセス

JT Group Materiality は、戦略担当者、ERM担当者及び外部アドバイザーから成るプロジェクトチームを編成し、以下の4つのプロセスにより案を策定しています。マテリアリティの改定については、最終的には取締役会の決議を得た上でJT Group Materialityとして特定しています。

フェーズ1：マテリアリティトピックスの洗い出しと作成

- マテリアリティの特定に資する外部環境の変化やJTグループのさまざまな事業課題を踏まえ、グループの持続可能な成長やサステナビリティ課題にインパクトを与えうるトピックスの洗い出しを実施
 - SDGs、SASBやGRI等の各種サステナビリティ開示基準やフレームワーク、Enterprise Risk Management (ERM)*でのリスクファクター、同業他社のマテリアリティ等のさまざまな情報の調査・分析を通じて、トピックスを洗い出し
- * サステナビリティとリスク管理については、[第39期有価証券報告書](#)・P23へ

フェーズ2：ステークホルダーインタビューとデスクトップ分析

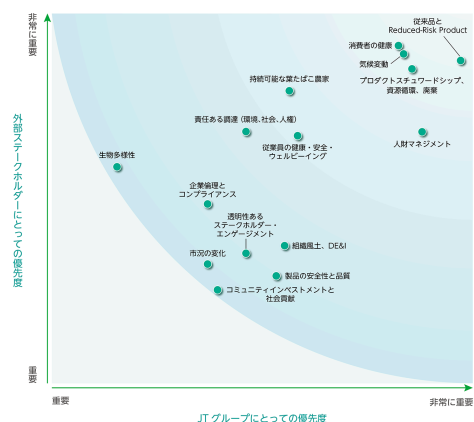
- 社内外のステークホルダーに対してフェーズ1で作成した各トピックスをベースにインタビューやサーベイを実施し、意見をヒアリング・集約
- さらに外部評価機関のレポート、グローバルメガトレンドやメディアレポート等の情報を含むデスクトップ調査を通じてトピックスの抜け漏れを確認した上で、社内外ステークホルダーにおけるトピックスを優先順位付け
- ステークホルダーにより、マテリアリティトピックスの優先順位が異なることから、評価の品質を担保するため、多数のステークホルダーからの意見をヒアリング

ステークホルダーへのインタビューおよびサーベイ、実施状況

- コーポレート・各事業の執行役員を中心に119人
- サプライチェーン、取引先、NGO、社外関係者 27件
- 投資家、銀行等 38件
- 従業員等 約450件

フェーズ3：マトリックスの作成と優先順位の可視化

- 初回マトリックス同様、たばこ事業のマトリックスを策定し、それをベースに全社マトリックスを策定
- 個々の課題とその重要性の可視化を企図し、ステークホルダーにとっての重要度や影響度といった優先度を縦軸に、JTグループにとっての優先度を横軸におき、マテリアリティトピックスをマトリックスに反映



フェーズ4：課題群の特定

JTグループ・外部ステークホルダーの双方にとって優先度が高いものをJTグループが社会とともに持続的に成長するために優先的に取り組むべき課題と位置付けたうえ、課題感や対応の期待効果が近似するマテリアリティトピックスをグループし、環境保全、製品・サービス、人財、サプライチェーンマネジメント、ガバナンスにまつわる5つの課題群を特定

JT Group Materiality

4Sモデルの追求を経営理念とする当社グループは、「自然や社会が持続可能であって初めて人の暮らしや企業の活動も持続可能となる」という考えのもと、JT Group Purpose（パーパス）の具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくべく、サステナビリティ経営の根幹となる「JT Group Materiality（マテリアリティ）」を改定し、「自然との共生」「お客様の期待を超える価値創造」「人財への投資と成長機会の提供」「責任あるサプライチェーンマネジメント」「良質なガバナンス」という5つの課題群を特定しています。

また、マテリアリティを踏まえた当社グループとしての具体的な目標および取り組みについて、全25項目からなる「JT Group Sustainability Targets（サステナビリティターゲット）」を策定いたしました。

JT Group Sustainability Targets詳細については、[こちら](#)  をご覧ください。

JT Group Materiality: ステークホルダーからのコメント

マテリアリティマトリックスの策定とJT Group Materialityの特定において、さまざまな社内外のステークホルダーに参加いただき、意見をヒアリングさせていただきました。JT Group Materiality の特定について、寄せられた声を一部紹介します。

「サステナビリティの課題に取り組む、数多くの企業に対して提言・アドバイスを実施しています。マテリアリティの策定は、サステナビリティ課題の優先順位をつける入り口の大事なプロセスであり、中長期戦略や取り組みを左右する基礎となります。

我々はマテリアリティ策定後のレビューといった視点で関与させていただきましたが、JTグループの事業に関わる可否で限定することなく、あらゆる社会課題を一つひとつ確認し、社内外のステークホルダーの意見を丁寧にヒアリングしながら、JTグループが取り組むべき課題を真摯に受け止め、マテリアリティを策定されたことが見て取れました」

社外関係者

「耕作労働規範(Agricultural Labor Practices：ALP)は、葉たばこサプライチェーン管理における主要プログラムの一つであり、葉たばこサプライチェーン・デュー・ディリジェンスにとって不可欠です。2012年にスタートした同プログラムでは、葉たばこ農家における児童労働の撤廃、労働者の権利改善、労働安全衛生についてのガイドランスを規定しています。2015年にはALPの適用を葉たばこサプライヤーに拡大し、継続的な学びとステークホルダーとのエンゲージメントを通じて、葉たばこサプライチェーン・デュー・ディリジェンスの一部へと進化してきました。「2025年までにすべての調達国でALPを導入する」を目標としており、目標達成に向けての歩みを続けています。買収を通じてグループ傘下に入ったバングラデシュやエチオピアといった葉たばこ調達国において、ALPが完全に導入されたことは大きな進歩です。サプライチェーンの管理は、当初のマテリアリティ評価でも重要課題の一つとして位置付けていましたが、最新のマテリアリティ評価においても、葉たばこサプライチェーンは重要課題の一つとして特定しており、今後も取り組みをより一層強化していきます」

JTインターナショナル 葉たばこサプライチェーン・デュー・ディリジェンスDirector

「加工食品事業では、食を通じて、JT Group Purpose“心の豊かさを、もっと。”を実現するため、加工食品事業パーパス「食事をうれしく、食卓をたのしく。」を定めました。このパーパスを事業運営の拠り所とし、すべての同僚やお客様をはじめ、さまざまなステークホルダーの皆様とともに、食に関する社会課題と向き合いながら、我々ならではの食の価値を提供し続けることを目指したいと思っています。今回改めて特定された5つのマテリアリティは、その実践のための重要な道標であり、マテリアリティをもとに、我々の取り組みをより一層進化させ

てまいります」

JT 加工食品事業 食品事業企画室 次長

「更新のプロセスを進めていく中で、改めて自然や社会と人の暮らしや企業の活動の関係性を深く考えさせられました。その中で、それらの持続性を高めていくためには、“私たち”を、JTグループのみならず、ステークホルダーの皆様も一緒になった“私たち”で取り組んでいく必要性を強く感じています。そのため、マテリアリティは策定して終わりではなく、今後もさまざまなステークホルダーの皆様と対話を積み重ね、ともに取り組みを加速させていきたいと考えております。また、取り組み自体を適切にモニタリングし、社会環境や事業環境の変化も捉えていくことで、“私たち”のマテリアリティとして柔軟に更新していければとも考えております」

JTサステナビリティマネジメント部 濱田（マテリアリティ策定プロジェクト・プロジェクトリーダー）

[ページトップへ戻る](#) ^

サステナビリティ検討会

JTグループのサステナビリティ課題を議論する場として、2020年から定期的にサステナビリティ検討会を開催しています。CSOを議長とし、JTグループの各事業・コーポレート部門の責任者が参加しています。2023年には3回開催し、マテリアリティの改定を踏まえたJT Group Sustainability Targetsの策定、GHG排出量削減についての取り組みと目標に対する進捗、人権尊重の取り組みとガバナンス、事業ごとのサステナビリティ課題、CSRD、ステークホルダーエンゲージメントといった課題やテーマについて、議論と情報共有の場を設けました。なお、検討会で議論された内容は、適宜社長および取締役へ報告しています。



[ページトップへ戻る](#) ^

サステナビリティの取り組み：2023年度の進捗

JT Group Sustainability Targetsに対する2023年実績は以下の通りです。なお、2023年実績については「JTグループ環境計画2030」および「各事業の中期取り組み目標」（旧KPI）を抜粋しています。新ターゲットについては2025年度（2024年実績）から報告を開始します。

2023年、JT Group Sustainability Targetsの進捗

旧KPIの2023年実績は以下の通りです（以下2023年実績は、従来の報告フォーマットを使用しています）。

2023年、JTグループ環境計画2030の進捗

2023年、たばこ事業における取り組み目標の進捗

2023年、医薬事業における取り組み目標の進捗

2023年、加工食品事業における取り組み目標の進捗

なお、上記実績については、取締役会に報告しています。

[ページトップへ戻る](#) 

SDGsへの貢献

JTグループは、国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）及び当事業や事業環境に関わるSDGsの目標を支持しており、事業活動を通じて、関連する以下の目標の実現に貢献してまいります。持続可能な事業への取り組みと、関連するSDGsの目標を特定しており、各事業が最も貢献できるのは、次の9つのSDGsです。



Get Adobe
Acrobat Reader

PDFファイルをご覧いただくには、Adobe Readerが必要です。

Adobe Readerはアドビシステムズ株式会社より無償配布されています。

[Adobe Readerのダウンロードページへ](#) 

SPECIAL CONTENTS 

SPECIAL CONTENTS 

SPECIAL CONTENTS 

SPECIAL CONTENTS 

SPECIAL CONTENTS 

SPECIAL CONTENTS 

JTで芽吹く、
心の豊かさへの取り組み記録。



あなたに知ってほしい JTの取り組み



#働く

#共創する



#暮らす

#学ぶ



#共創する

#学ぶ

届け！葉たばこ農家の「フェロモントラップ」 バレーボールがつなぐ人
想いー生産者と消費者 って知ってる？ 世界100 人——選手がファンに
をつなぐ「Farmersマル カ国で活躍中の、グロー 伝えたいこと
シェ」を現地取材！ バルでニッチな商品と
は!?



#暮らす

#共創する

宇宙飛行士の歯磨き事情
が生んだ製品!? いつでも
どこでもオーラルケアで
きる「Chupica」が地上
に



#休む

#暮らす

余暇時間をもっと豊か
に！ JTが開発したアプ
リ、「Offly」「beSelf」
「Habee」って？



「こころノート」プロジ
ェクトを始めた理由